

# 梅のヨコバイの発生実態と防除対策



JA 紀南 富田川営農室 原 大輔



## ヨコバイの生態



病害虫名

*Singaporea  
shinshana (Matsumura)*  
和名なし

ヨコバイの成虫の体色は黄緑色で体長は 3～3.5mm。複眼は黒色で、頭頂部に黒点があります。本種はウメ・スモモ・モモ等のバラ科果樹などを加害することが報告されています。

成虫・幼虫が葉を吸汁し、多数の細かい吸汁痕がつくことにより、葉の表面が白っぽく見えます。また、吸汁された葉は落葉することがあります。

和歌山県内では田辺市・上富田町・白浜町・みなべ町で本種が確認されています。

## 1. 目的

近年、梅園でのヨコバイによる葉への吸汁被害が拡大しています。しかしヨコバイの生態・防除体系等は確立されていないのが現状です。そこで効率的な防除対策を確立するため、ヨコバイの発生消長を調査するとともに、有効な薬剤を探索しました。

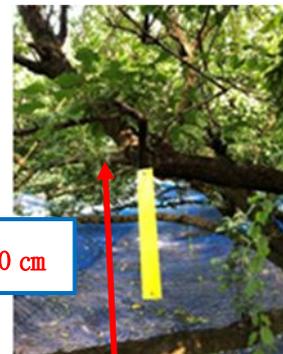
左：被害枝



## 2. 調査方法

### 1) ヨコバイの発生消長調査

2020年6月22日から11月30日にかけて、上富田管内の3園地（生馬A園・田熊B園・岩田C園）に害虫捕獲粘着紙（ピタットトルシー）を高さ150cm付近に設置し、概ね7日ごとに回収し捕獲数を調べました。



### 2) 薬剤効果試験

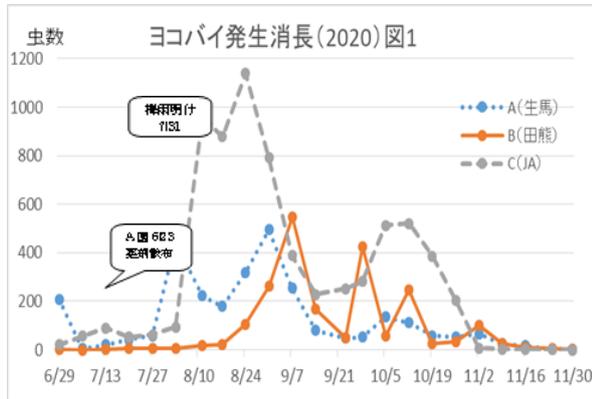
2020年8月6日から11月20日の間、上富田町岩田Y園に害虫捕獲粘着紙（ピタットトルシー）を高さ150cm付近に設置し、概ね10日ごとに回収し捕獲数を調べました。試験期間中の8月12日には動噴で各種薬剤を4樹ずつ散布しました。

薬剤名	倍数	登録	その他
スタークル顆粒水溶剤	2000	アブラムシ・カメムシ・シンクイムシ	小粒核果類で登録
モスピラン顆粒水溶剤	3000	アブラムシ類・カイガラムシ類他	うめ
スブラサイド乳剤40	1500	カイガラムシ類	小粒核果類で登録
マブリック水和剤20	4000	アブラムシ類・ケムシ類	うめ
エクシレルSE	5000	ケムシ類	小粒核果類で登録

## 3. 結果

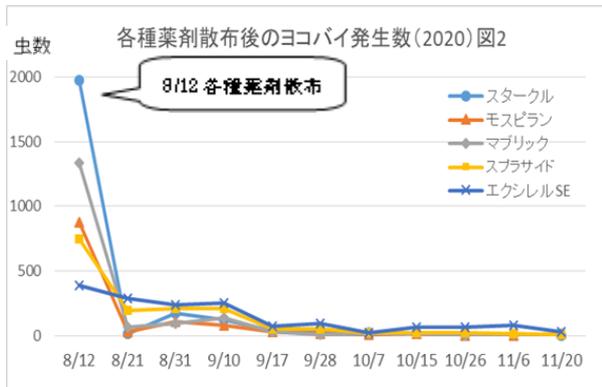
1) ヨコバイの発生は園地による差はありますが梅雨明け後から急増し、ピークは8月上旬から9月上旬と9月下旬から10月中旬と推測されます（図1）。

調査開始が6月下旬からであったため、春先からの発生推移も確認する必要があります。

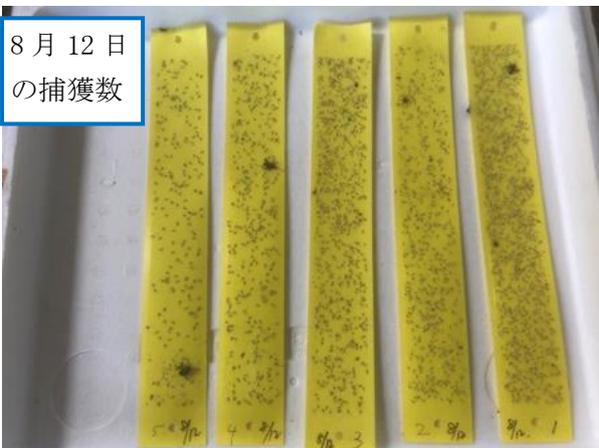


2) 薬剤の効果は、スタークル顆粒水溶剤・モスピラン顆粒水溶剤・マブリック水和剤は速効性で高い効果が見られ、スプラサイド乳剤も高い効果が見られました。エクシレルSEは他剤と比較すると効果は劣りました。(図2)。

試験結果・現場の状況から 20 日程度は効果が期待できます。



8月12日の捕獲数



3) 予定には無かったのですが、生馬 A 園で害虫捕獲粘着紙(ピタットルシー)にキクイムシが捕獲され8月下旬から増え9月21日にピークを迎えました(図3)。



## 4. 考察

ヨコバイの発生量は園地による差が見られましたが、気温が上がり乾燥が続くと多くなり、降雨が続くと抑制されると考えられます。

また、特に梅雨明け後は急激に発生量が増えます。薬剤はネオニコチノイド系・ピレスロイド系・有機リン系の薬剤は効果が高いですが、ヨコバイに対して登録が無いので他の害虫と同時防除で対応が可能です。しかし、発生期間が長いいため数回の防除は必要と考えられ、どのタイミングで散布すれば効果が高いかは今後検討が必要です。

